

第25回JACR学術集会 開催報告



西野 善一 副理事長／第25回学術集会会長

金沢医科大学医学部公衆衛生学

第25回学術集会を平成28年6月2日、3日に金沢市の石川県女性センターで開催しました。幸い両日とも天候に恵まれ、2日のがん登録担当者研修会には167名、3日の学術集会には181名のご参加をいただきました。全国各地よりお越しくださいました参加者の皆様、ならびに演者、座長を務めていただきました先生方に心より御礼申し上げます。

ご承知のとおり今年1月より「がん登録等の推進に関する法律」が施行され全国がん登録がスタートしました。法律の基本理念である全国がん登録情報の調査研究への十分な活用と成果の国民への還元をどのように行っていけばよいかを議論することができればと考え今回の学術集会のテーマは「全国がん登録の保健・医療への貢献」としました。

2日午後のがん登録担当者研修会では「全国がん登録における情報の利用と提供」をテーマに3人の方からお話をいただきました。世界のがん統計情報公表の現状と全国がん登録の統計情報公表の予定、全国がん登録情報の提供の時期や方法、内容に関する現時点での計画と課題、活用事例としての患者住所と医療機関の距離と診断時病期、生存率との関連の検討結果のご発表があり、今後各都道府県において全国がん登録情報の集計結果の公表や利活用を進めていく上で貴重な情報を得る機会となりました。研修会後には金沢都ホテルで情報交換会を開催しました。金沢医科大学クラシック音楽部の演奏や石川の地酒とともに大いに情報交換をいただけたものと思います。

3日の学術集会では会長講演の後、招請講演として山田圭輔金沢大学附属病院緩和ケアセンター長から「がん哲学外来とは何か」の題でお話をいただきました。がん哲学外来を志すきっかけから実践の基盤となるロゴセラピーの考え方をわかりやすく話され多くの方から好評をいただきました。総会、ポスター発表の討議時間の後、昼食時に福吉潤株式会社キャンサースキャン代表取締役のランチョンセミナー講演「がん検診受診率を上げる!行動変容マーケティングの科学的アプローチによる先進事例」、午後に西本寛国立がん研究センターがん対策情報センターがん登録センター長の教育講演「がん診療連携拠点病院院内がん登録生存率集計」

「をどう生かすか」と学術委員会企画シンポジウム「全国がん登録の活用をいかに進めるか」を開催しました。シンポジウムでは対策、検診精度管理、生存率の都道府県較差の分析、診療実態把握への活用に関する各演者からの講演の後、患者会のお二方より講演、特別発言をいただくとともに総合討論に加わっていただきました。がん登録からどのようにして求められる情報を生み出して届けていくかということを考えていく上で非常に意義のある討論が行われました。

ポスターは33演題の発表があり、学術委員会が最優秀賞1、優秀賞2、特別賞(グッドプラクティス賞)1、特別賞(グッドプレゼンテーション賞)1を選考し閉会式で表彰しました。がんの罹患や予後、がん検診の現状を地域がん登録データ等から分析して対策に生かすことを目指した意欲的な発表が目につきました。

今回の学術集会は石川県、石川県医師会、金沢医科大学の関係者が中心となり、多くの諸団体のご後援、ご協賛、ご寄付をいただき開催しました。おかげをもちまして盛会のうちに無事終了することができました。ご協力いただきました全ての皆様に感謝申し上げます。来年の学術集会は愛媛県で開催されます。ご成功を心よりお祈りしております。



学術委員会企画シンポジウム総合討論